

# おーぷん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第97号 2024夏』

発行:さざんか会法人本部/船橋市行田 2-8-1/☎047-404-1135

編集:おーぷん編集委員会/けいよう/船橋市二和西 5-10-1/☎047-411-8177



障害者差別解消法が施行され、8年が経過しました。この法律の要となるのが「合理的配慮」になります。障がいのある人が、あらゆる生活場面において不利益を被ったりで、人権や人格を損なわれたり、理不尽な目に遭ったりすることのないよう、過重な負担が生じる場合を除き、合理的配慮を施すことが促されます。例えば、レストランや劇場やスポーツ施設など、階段の他

にスロープを設け車椅子の人が容易に利用できるようにしなければなりません。障がいの状態により、様々な合理的配慮が用意されなければなりません。まずは、役所などの公的機関に於いての合理的配慮が義務付けられました。そして、この4月から民間の事業所に於いても義務化されることになりました。先日、新聞紙上に日本盲導犬協会が実施した盲導犬ユーザー

さんへのアンケート結果が報じられていました。ユーザーさんの44%の人が、去年1年間に「犬はお断り」などと拒否された経験があった。拒否された場所は飲食店が55%で最多であり、タクシーなどの交通機関が12%、宿泊施設が9%とのことでした。こうした中で、タクシードライバー対象に盲導犬ユーザーさんが講師となり、タクシー乗降の誘導の仕方などの講習が行われ

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

『私はほえませんが、かみません』

## おーぷん97号目次

P1 「私はほえませんが、かみません」  
さざんか会 理事長 宮代隆治

P3 災害被災地支援報告  
「千葉県DWATによる能登半島地震災害派遣に参加して」  
北総育成園 宮澤 賢司

P5 北総の里だより  
・北総育成園  
・笹川なすな工房

P8 各事業所春だより  
・のまる  
・けいよう  
・ゆたか福祉苑  
・カメラアハウス  
・のまのまホームズ  
・とらのこキッズ  
・さざんかキッズ

P12 令和6年度  
社会福祉法人さざんか会  
船橋地区第一回新任職員研修  
報告  
カメラアハウス 藤藪 正英

ました。参加者からは「ほえたり、かんだりしないの?」といった質問も出たとのことでした。

もう20年程も前のことになりました。当時、千葉県では健康福祉政策課や障害福祉課が中心となり、地域福祉計画や障害福祉計画が作成されていました。それは、健康福祉千葉方式として、官民共同での作業となりました。私もその作業をお手伝いする委員の一人として参加しました。

同じく船橋から主に視覚障害のある人たちへの障害福祉サービスを提供する事業所の理事長さんも参加されていました。会議は、県庁において月に一回から多いときは複数回に及びます。毎夕6時頃から始まり、2〜3時間は続きます。この時、この理事長さんに同行するのが、「ゴールデンレトリバーの『ジャム』」君でした。盲導犬として、徹底的に訓練を受けその任に堪え、全うする能力を身に備えたジャム君の態度は、「感嘆!」の一言でした。リードに繋がれた彼は盲目の理事長さんを先導し会議室に入ります。椅子に座った理事長さんの足元にふせの姿勢を取ります。そして会議の間、それが

2時間であろうと3時間であろうと、殆んど静止しています。身動き一つしないのです。ほえたり、跳ねたりは皆無です。まして、気分が高揚して攻撃的になるなど、考えられません。ここまで、訓練されているのか…、と感心させられました。会議が終わると、暗い夜の街をジャム君は理事長さんを先導して、いつものように静々と帰って行きました。



そんな様子を見ながら、学生時代のことを思い出していました。田舎から上京した私は、大学生活4年間の大半を、都下練馬区関町というところに暮らしました。その間、一年半余りその街で牛乳配達のアルバイトをしました。その光景を度々見かけたのは、牛乳代金の集金をやった後、買い物に出かけたりの時でした。私の配達担当区域に盲導犬の訓練所がありました。訓練士と、リードに繋がれた訓練犬はマンツーマンで歩きます。訓練士はさっさと歩きながらも止

まったり、歩き始めたり、その都度言葉で或いはジェスチャーで厳しく指示を伝えます。その指示に従い、犬は調子を合わせ進みます。この時、訓練士と犬の間には緊張感というか、他が入り込むことを許さないピリピリとした空気が支配しているように見受けていました。以心伝心、人と動物の一体化というか。指示や命令に対し、素直に従順に振る舞うばかりです。これだけの厳しい訓練を受け、そしてそれを身に付け盲導犬は誕生するのですね。「ほえたり、かんだりしないの?」は論外の懸念です。盲導犬とは、の実際が知られていないことにより、こんな懸念や疑問が生じてしまいます。無知や誤解が偏見を生み、結果として差別を助長してしまう、こんな図式が当てはまりそうです。

### 色頼問余



このことは障がい者差別に限られません。この国のハンセン病対策もそうでした。この病を過度に恐れるがあまり、患者を社会から隔離や排斥することが長年にわたり続けられました。ハンセン病に対する世界の潮流に逆行することでした。為に、多くの患者や家族が悲惨な目に遭わされました。他にも性に関すること、人種や民族や出自など、今日も私たちの周囲では様々な差別の実態があります。

まず、事実を知ること。インターネットの日常化により、世の中には伝聞や情報や主張が溢れています。中には、根拠のない嘘にまみれたいい加減なものも混じっているようです。だからこそ、事実を探究することの大切さを改めて考えています。間違った判断から、他人を傷つけた悲しませたりすることがありませんように。



# 災害被災地支援報告

## 千葉県D・W・A・Tによる能登半島地震

### 災害派遣に参加して

北総育成園 支援員 宮澤賢司

令和6年2月2日から8日までの1週間、私たち第4班(5名)は活動させていただきました。

初日、石川県庁を訪問(宿泊地は富山駅前ホテル・現地での移動はレンタカー)。2日目より七尾市立和倉小学校体育館(一般の一時避難所・災害支援責任者は京都市役所職員が代行)に入り、前チームより引き継ぎを受ける。宿泊地から和倉小学校の移動には往復で最短150km。市役所職員さんと連携をはかりながら活動していくことを確認。

体育館は断熱工事がされていないため、正午であっても床か

らの底冷えする冷氣からは逃れられないものでした。トイレの数が圧倒的に不足しており、屋内トイレは移動の困難な高齢者(女性)が使える状況になっていったことを聞き少しホッとしましたが、清掃当番が限られた方になってしまっている等の課題も判ってきました。中でも一番に感じたことは、水・トイレの重要さでした。飲用水はペットボトルがその役割を果たしていました。トイレは屋外設置型(汲み取りタイプ)を除いて、基本的に屋内水洗トイレが全く使えません。その空間で排泄の都度、凝固

剤を入れたビニール袋の中に用を足した後、入口に置かれたポリバケツに可燃ごみとして保管していました。感染症で校舎の別室に隔離された被災者(持病や精神障害を抱えた方々)からは孤独やトイレの衛生状況等についての訴えを伺う機会があり、熊本日赤さんへもその情報を共有することができ改善の方向に向かいました。熊本地震の際、地震による死者数よりも災害関連死者数の方が多かったことを改めて知り、1日も早く避難所生活が終わることを祈らざるをえませんでした。

上水道が復旧しても被災住民が自宅に戻るためには、宅内漏水を個人で解決する必要があるとのことでした。報道の中で、『見放されている』と語った被災者の言葉が重かったです。経済的負担とともに、不足している職人さんを確保する公的支援が求められています。遠隔地からの日帰り支援では一日の作業時間が半減してしまいます。公的支援で現地に井戸を掘削し合併処理浄化槽を敷設した宿泊拠点(テントやプレハブ・コンテナ等)を確保すれば、移動時間口

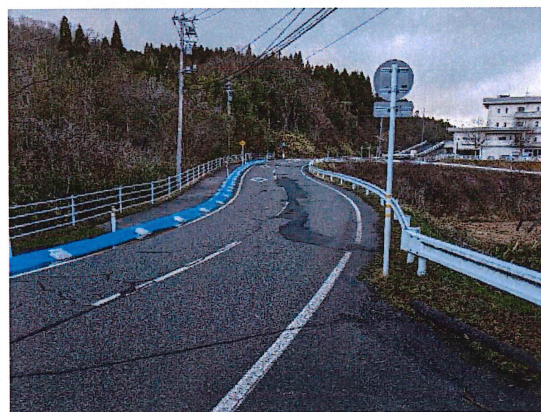
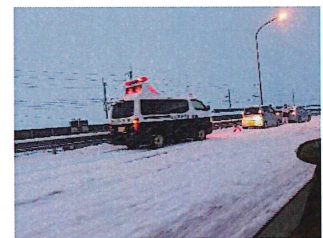
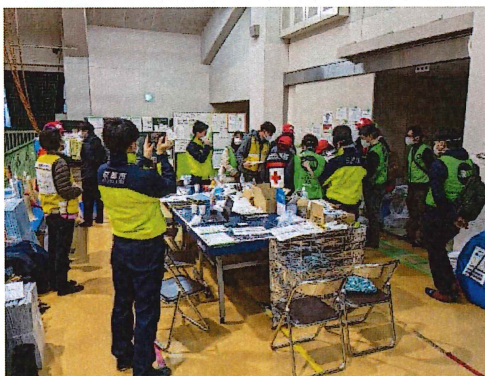
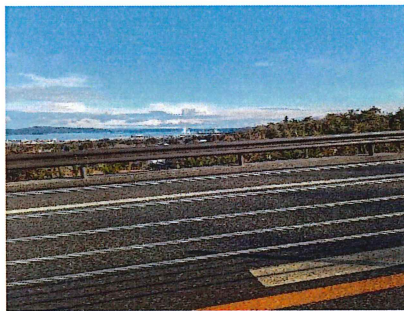
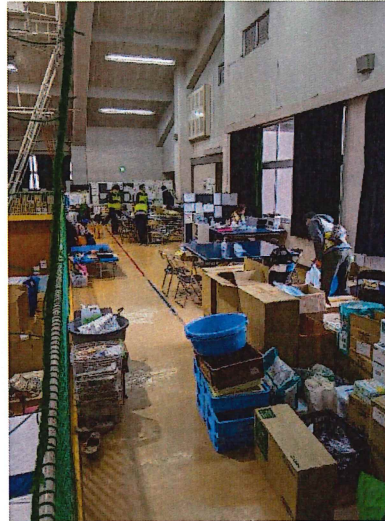
又無く災害復旧作業が可能になります。さらに、被災住民に対して行われたカーフェリーによる宿泊サービスが災害復旧作業員にまで拡大できれば復興支援が加速します。

『困ったときは お互い様』という日本文化は、自然災害の多い我国では自然に生まれてきたのではないのでしょうか。先の東日本大震災では千葉県旭市にも津波が押し寄せ犠牲者が出ています。房総半島に生活している私達は今回の能登半島を襲った地震が、『房総半島地震』であったならばと想うことによって、能登半島地震被災者のおかれた困難な状況に寄り添うことが出来るのではないかと考えます。

正確な情報を皆で共有し復旧・復興が果たせるまで、全てを失った方の力に少しでもなればと願っております。

能登半島地震災害派遣に参加させていただき貴重な体験ができました。今回参加することを許可・応援してくださった職場の皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。

# 能登半島地震被災地支援写真レポート



# 北総の里だより

## 北総育成園創立50周年

### お祝いの会 開催

支援課長 絵鳩典子

去る5月15日大安吉日、晴天の中、北総育成園創立50周年お祝いの会を盛会の内に終える事ができました。50周年という大きな節目のお祝いの会。北総が長年大切にしてきた、利用者を真ん中に保護者、職員が両輪となって支えるその形を具現化しようなあたたかい会になればと、実行委員を中心に準備してきました。全利用者が安全に楽しく参加できるように、会場を北総、鯉屋旅館と2か所に分けての開催としました。

新しい服に袖を通した利用者さんの表情はとも晴れやかで、身なりを整えるということも、心が整うことにもつながることを改めて実感できました。まずは北総会場からお祝いの会がスタート。会場となった食堂はバルーンやカラーテープで装飾されとても華やか。冒頭の施設長からのお祝いの言葉や会場の様子は動画撮影され、鯉屋会場で上映。そうすることで会場は別でも園のみんなでお祝いする一体感をより感じることができました。その後、スライド上映、カラオケ、ケーキバイキングでお祝い。特に6種類のホールケーキは光や音楽の演出と共に

登場し、会場は大いに盛り上がったとのこと。昼食は和風レストランに頼んだ和牛弁当をおいしく頂きました。



鯉屋会場では入口でパンフレットをお渡しし、着席後、胸に好きな色のコサージュを付けます。開式前は北総会場の映像を流し気分を高め、いよいよ開式となりました。宮代理事長、井上保護者会長、船橋市副市長、東庄町副町長、ライオンズ会長の皆様からお祝いの言葉を頂戴しました。乾杯のあとは美味しい料理を頂き、そしてこのお祝いの会のために編集されたスライドを上映。まだ若かりし頃の利用者の様子や今は亡き仲間の映像は感慨深いものがありました。こういった歴史がわかる写真を見ると、生まれた家を離れ北総で一生懸命生きてきた利用者、いつも見

守ってくれるご家族、その時代を支えてくれた職員の姿を共有することができ、改めて謙虚な姿勢でこの人たちを大切に  
する意識が高められます。会の最後には岩田東庄町町長も駆けつけて下さりお祝いの言葉を頂戴しました。



創立50周年の記念品は法人の名称でもあるさざんかの花が華やかにデザインされた手ぬぐい、50周年記念ボールペン、地元「あづき庵」さんの紅白饅頭、来賓の方へは手芸介護班の刺し子バッグ、木工班の焼き板鍋敷、農耕班の切り干し大根を加えて用意。  
4月27日に開催された保護者職員懇談会、お祝いの会でそれぞれお渡ししました。また、お祝いの会当日には50周年記念Tシャツを披露。早速、利用者職員の皆さんが喜んで着てくれています。  
50年という長い年月の中で、障害のある方々を支える福祉制度も変わり、当園が抱える課題も決して少なくはありませんが、時代や制度が変わっても「一期一会・一輪の花」の精神を大切に、また今日から一歩一歩、利用者、保護者と共に歩みを進めて参ります。



## “ 笹川なずな工房だより ”

笹川なずな工房 施設長 羽生 真弓

「玉ねぎできたよー」元気な声が響きます。生き生きと楽しく、そして施設での活動が面白いと感じてくれる利用者さんがいること。その礎は、充実した毎日の活動、目指す就労へと進めるよう寄り添って、チーム一丸となって何より地道な積み重ねが新たな景色を発見できることへと繋がる、と願っています。



新年度の声と共にジャムの材料となるイチゴの収穫が始まり、まだ4月だというのにハウスの中は暑い。連日の収穫、へた取り、加工としばらくイチゴの香り漂う作業場。



季節は進み続くは、今が旬の人気商品となるらっきょうの加工が始まります。同法人の北総育成園、農耕班で栽培された土付らっきょう。葉、根をハタキ、薄皮を剥き、洗い、漬け込みとなります。各担当が次々と進めて

いきます。終盤を迎える頃にはブルーベリーの収穫とめぐる季節の作業、夏には、かぼちゃ加工と続いていきます。



毎日を丁寧に重ねていきたいと作業に取り組む。製造―納品―販売と、その作業に追われる中、利用者さん一人一人の頑張りが見れます。これ出来るかな？これでもいいのかな？わからないうことは、沢山あります。やってみなければわからない。やってみよう、を原点としてきました。一人では難しくても、それぞれの出来る事や得意分野に工程を細分化する事で更に力を付けて

くれた姿を見せてもらってきました。

一つの小さな力は総合力として自信となり、それが顕著に現れるのが秋の各市町で行われるイベント販売です。コロナ禍で例年行事が様変わりしたこの4年でした。徐々に再開し9月の最週日曜日、11月の最終日曜日迄、続くイベント販売。1日2場面の準備となった11月3日は同日開催される地元、東庄ふれあい祭りや山田ふれあい祭りは、両場面で作り出すパンの量は圧巻です。年間通して一番忙しい日！と位置付けられる所以がここにあります。通常の作業に励み2か月に及ぶ週末のイベント販売の準備に意気揚々と打ち込む姿「復活」を痛感しました。この時に照準を合わせても簡単に成果が出ることではない事、日々の積み重ねがあって成される生産は、時間の中で間に合わせるための持続力と集中力が必要です。パートごとに担当を分け任せられ培われた各自の自信。自分の仕事の位置付けとして、やる事がしっかりとある事の必要性と大切さ。細分化して工程は増えてもみんなが、そこに

入ればその工程が流れとなり当たり前となりえます。それは必ずと〇〇さんの担当、「役割」となり、仕事となります。利用者さんの頑張る姿。職員の遅いゆるりイベント会場での保護者の皆さんの声を張り上げて励んでくださる売り子姿に背中を押されます。その結集は利用者さんが「楽しいよ・面白いぞ！」と共感する日々の作業となると考えています。令和6年、催しや出店のお声が増えています。有難いことです。

授産施設として産声を上げ22年目となり、中心として生産活動作業を進めてきました。一方で利用者さんも経験を重ねベテランとなってこられた方、少しゆっくり目のペースが望ましい方農産班(生活介護)の働くことの重心は、野菜づくり、花壇の整備、午後から希望により日中活動に体力の維持と健康への取り組み、余暇活動の一つに毎月のテーマを決めたちぎり絵作り、自然の素材を生かした創作活動を日課に加えています。小さいながらも畑の野菜づくりが活発となりB型事業で得られる卵の殻や酢

母を使つての肥料をつくり、それを使つて土をつくり、種をまく、苗を植える、自然の育み、息吹きを五感で感じ、その一つ一つの工程での出番のある暮らしが、「やってみよう」へと続きます。より収穫の楽しみを大きくしてくれています。変化に対応しながら、革新を探索していく時、「謙虚な心・共感する心・感謝の心」を大切に、一歩ずつ進んでいきたいと思ひます。





# のまる

暖かな春の陽気と共に、新年度がスタートしました。今年度最初のおーぶんは、お花見の様子を紹介したいと思います。今年度は昨年よりも開花が遅く、桜を待ちわびている利用者様が多かったように思います。のまるでは、各ユニットや生活介護グループで近隣の公園内にてお花見をしました。満開の桜の前で立ち止まり木々を見つめる姿や、桜の花びらを拾い、眺めている利用者様の姿も多く、この時期にしか味わえない貴重な時間となりました。

園内を歩行後は、自販機で好きな飲料を購入し、美しい桜を見ながら、ティータイムを楽しまれました。桜の木の下で、暖かい春の風を感じながら、皆さん笑顔で過ごされました。

来年も同じように笑顔で過ごして頂けるよう、より楽しめるお花見にしたいと思います。

今年度もイベントや個別外出も予定している為、楽しんで頂ける企画にしていきたいです。

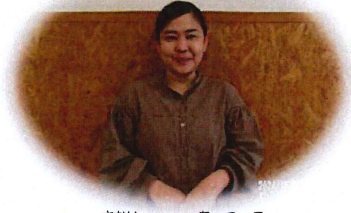
暖かい日が続くようにはなりましたが、まだまだ寒暖差も激しく朝晩は冷え込む日もありますので、利用者様の体調に配慮しながら健やかに過ごしていただけるよう、のまる全体で取り組んでいきたいと思えます。





# けい い よ う

## 職 員 紹 介



さい 奈津子  
ゆたか福祉苑より異動してきました。よろしくお願ひ致します。



けいように異動してきた職員3名と新しい職員が1名増えましたので紹介したいと思います！  
よろしくお願ひ致します。



ますだ 利彦  
昨年、10月よりけいように勤務しています。よろしくお願ひ致します。



いざわ 英代  
カメラハウスより異動してきました。よろしくお願ひ致します。



はら 薫  
ゆたか福祉苑より異動してきました。よろしくお願ひ致します。



はなおか ちなみ  
1月より入職いたしました。宜しくお願ひ致します。



おばら 豊  
2月より復職いたしました。宜しくお願ひ致します。

ゆたか福祉苑に、新たな仲間となりました職員の紹介をさせて頂きたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

# ゆたか福祉苑



かわぐち あきこ  
とらのこキッズより異動してまいりました。宜しくお願ひ致します。



# カメラリアハウス



新年度が始まり、もうすぐ梅雨の時期ですね。

5月の土曜開所日は、コロナも落ち着き始めてきたので、それぞれのグループで外出してきました！

電車活動や昼食を買って近くの公園でピクニック、千葉ポートタワーまで外出してきたグループもありました。今年度は外出や外食会など少人数での外出を企画していきたいと考えています。

4月より2名の職員がカメラリアハウスに異動してきてくれたので紹介します！



名前 坂巻 優衣

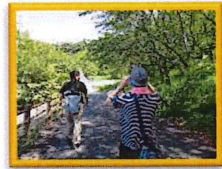
出身地 千葉県

趣味 読書・ピアノ

利用者さんと共に楽しく頑張っていこうと思います。よろしくお願いします。

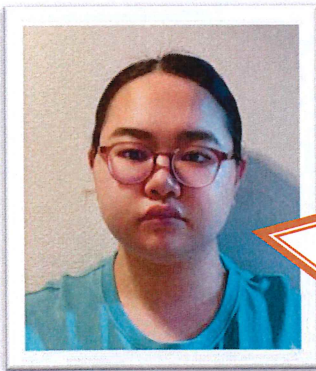


名前 森田 一輝



# のまのまホームズ

新年度を迎え、新たな仲間となりましたスタッフを紹介いたします。

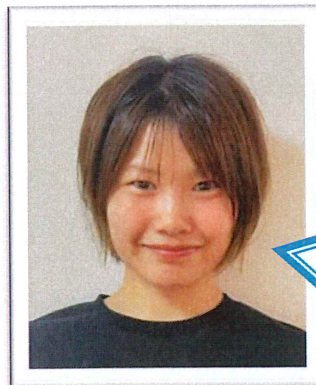


名前：梶原遥（かじわらはるか）

出身：東京都

休日の過ごし方：自宅でゆっくり

ひとこと：利用者様のご意向を汲み取り、よりよい生活を送る手助けができればと考えております。よろしくお願いいたします。



名前：金子奈美（かねこなみ）

出身：京都府京都市

趣味：体を動かす（30分以上無理）

美味しいもの食べに行く事

ひとこと：利用者様と仲良くなって笑ってほしいです。色々頑張ります！

# とらのこキッズ

新年度が始まり、とらのこキッズと一緒に働く仲間が増えたので、ご紹介します！



- ①秋谷 愛媛(あきや えひめ)
- ② “でんしゃがきました”  
“はじめてのおつかい”

③子ども達と一緒に楽しみながら成長していきます。よろしくお願いします！

- ①名前
- ②好きな絵本
- ③一言



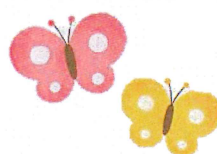
- ①柳沼 桃子(やぎぬま ももこ)
- ② “はらぺこあおむし”

③お子さんと一緒に楽しく成長していけるように頑張ります！



- ①大石 沙和(おおいし さわ)
- ② “11匹のねこ”

③毎日みなさんと楽しく過ごしていきたいです！



- ①高山 莉子(たかやま りこ)
- ②栃木県
- ③絵を描くこと・創作・ファッション
- ④自分の好きなことや得意なことを活かしてお子さんと関わっていけるよう頑張ります。



- ① 本多 絵里(ほんだ えり)
- ②神奈川県
- ③小型犬
- ④保育士学校卒業して初めての職場です。宜しくお願い致します。



- ①岩井 れい(いわい れい)
- ②千葉県
- ③KPOPが好きです
- ④精一杯頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



- ①小林 愛実(こばやし あみ)
- ②千葉県 ③藤井 風
- ④子ども達が毎日”楽しい””明日も行きたい”と思えるように1人1人と全力で向き合っていきたいと思います。



10年目を迎えたさざんかキッズ。今年度から加わった4名のフレッシュな仲間を紹介します。子ども達と一緒に元氣いっぱい！笑顔いっぱい！のさざんかキッズにしていきたいと思えます！

# さざんかキッズ

- ①名前
- ②出身地
- ③好き・推しは？
- ④ひとこと



# 令和6年度 社会福祉法人さざんか会 船橋地区 第一回新任職員研修

研修中

昨年度も綴りましたが働き手不足の昨今です。通年の職員募集の結果、今年度は7名の新任職員を社会福祉法人さざんか会の一員として迎え入れることができました。コロナはまだ波が行ったり来たりしている中でしたが、全員集まり対面での新任研修を行うことができました。

今年の担当は、さざんかキッズの奥山施設長と藤敷、それにさざんかキッズの児童発達管理責任者と、ゆたか福祉苑のサービスマン管理責任者の2名がお手伝いしてくれました。

クボーンがあり、それらを活かしながらこの2か月間を駆け抜けてきたことと思います。ここで自分がどれだけ頑張ってきたか、どれだけのことを身に付けてきたかという意味合いも含めて振り返りの作業をしてもらいました。「仕事を始めて楽しいと思うこと、やりがいを感じることは」やはり「子どもの笑顔」は断トツで多い中、「成長を感じたこと」「うがができるようになったこと」など仕事に手ごたえを感じていらっしやる意見もあり、嬉しくなります。「困っていることや思案していること」では「給食が足りない」「バス酔い」などの面白い角度からの答えもありました。最後の問いでは同期の皆さんへの励ましの言葉を挙げてもらい、同期ならではの温かな声掛けが張り出されました。今後もお互

いに支え合って切磋琢磨して成長していくのだろうかと、同期のいない私は羨ましく思います。



セッション2では座学「子どもたちの安心の場となるために自分のできることで、職場でできること」を奥山施設長よりお話しいただきました。療育とは何なのかという根本のお話からチームアプローチの大切さ、仕事に向かい合って行き詰ってしまった時の対処法など実際に活用できるような内容を聞かせていただきました。児童発達管理責任者とサービスマン管理責任者のお2人も素晴らしい間でコメントやアドバイスをくださいました。今年度の新人さんは皆さん児童発達支援センターに配属されているので、この先困難を迎えたとしても、今回の療育に

即したお話の中身を思い出すことで、壁を打ち破ることができるとではないでしょうか。

後日提出された研修報告書でも、セッション1でやはり周囲も自分と同じような悩みや思いを持っていることを知ることができ「独りじゃない」と感じることもできたという感想が多かったです。仕事を始めてまだ間もないころは弱音を吐いたり誰かに意見を求めたりすることは難しいのでしょうか。この新任研修で少しでもそのハードルが下がり事業所間を超えたチームプレイを展開していただけたら何よりですね。

おまけの質問で「初めてのポスターをもらったら何に使う？（額は関係なく）」と質問したところ、それぞれが、自分の暮らしている癒しや彩を添えるものを挙げてくれました。それって大人である楽しみの一つですよ。

同じ法人にいますから、これから先何度も顔を合わせることがあるかと思えます。そのたび皆さんの表情が充実感に溢れた笑顔であることを願っています。

カメリアハウス

施設長 藤敷 正英